

2026年10月8日

株式会社LIXIL



INAX MUSEUMS

INAXライブミュージアム企画展

難題こそ、おもしろい。オーダーメイドの建築やきもの

The Harder The Job, The More Interesting The Result : Architectural Ceramics Made To Order

【会期】 2026年10月31日(土)～2027年4月6日(火)

【会場】 INAXライブミュージアム「土・どろんこ館」 企画展示室

【URL】 <https://livingculture.lixil.com/ilm/see/exhibit/ordermade/>

株式会社LIXIL（以下LIXIL）が運営する、土とやきものの魅力を伝える文化施設「INAXライブミュージアム」（所在地：愛知県常滑市）では、2026年10月31日（土）から2027年4月6日（火）まで、企画展「難題こそ、おもしろい。オーダーメイドの建築やきもの」を開催します。グランドオープン20周年を記念して企画した本展では、建築やきもののこれからを考える手がかりとして、LIXILにおけるオーダーメイドのものづくりにスポットを当てます。



※画像はポスターイメージ

中央写真：大阪伊奈製陶ビル（1969、現存せず）の「スリーディメンションタイル」（デザイン：會田雄亮）

撮影：梶原敏英

オリジナルの建築やきものを求める依頼主と一対一で対話を重ね、理想のかたちをともに追求するものづくり。大量生産とは一線を画す仕事です。それぞれ異なる課題に向き合い、乗り越えるなかで培われた技術や知見は、伊奈製陶時代からINAX、そして今日のLIXILへと、技術者たちの現場に脈々と継承されています。

本展では、多様で豊かな建築やきものを生み出してきたオーダーメイドのものづくりを、「歴史のピースを復元する」「クリエイターとのコラボレーション」

「現代の建築をやきもので表現する」の三つのテーマで展開します。東京都庭園美術館（旧朝香宮邸）の復原タイル（2016、2017年）、陶芸家・會田雄亮が初めて建築へ挑んだ大阪伊奈製陶ビル（1969年竣工、現存せず）の「スリーディメンションタイル」、色と意匠に歴史を重ねたTODA BUILDING（2024年竣工）の「テラコッタ陶板」など11事例を、取り上げます。個々の取り組みをストーリー、写真、実物資料、そして壁面での再現展示などで紹介します。

やきものならではの難しさと可能性に向き合い、その特性を最大限に活かしてきた軌跡は、これからの建築やきもののあり方を考える手がかりにもなるでしょう。

企画展 難題こそ、おもしろい。オーダーメイドの建築やきもの**The Harder The Job, The More Interesting The Result : Architectural Ceramics Made To Order**

【会期】2026年10月31日（土）～2027年4月6日（火）

【会場】INAXライブミュージアム「土・どろんこ館」企画展示室

〒479-8586 愛知県常滑市奥栄町1-130 TEL:0569-34-8282 FAX:0569-34-8283

【開館時間】10:00～17:00（入館は16:30まで）

【休館日】水曜日（1/6、1/13は開館）、12/26-1/4 ※但し、本展のみ12/21-25も閉廊

【観覧料】共通入館料にて観覧可（一般：1000円、学生：800円、中高生：500円、小学生：250円/税込、各種割引あり）

【主催】INAXライブミュージアム 【企画】INAXライブミュージアム企画委員会

【展示デザイン】+建築設計 田代朋彦、【会場グラフィック】関田浩平

【URL】<https://livingculture.lixil.com/ilm/see/exhibit/ordermade/>



INAXライブミュージアムは、2026年にグランドオープン20周年を迎えます。これを記念して「ライブ！ライブ！ライブ！ーこの博物館は生きている」と銘打ち、皆さまへの感謝の気持ちを込め、本企画展をはじめ1年をとおして多彩な記念イベントを開催します。

■ 見どころ**○再現展示で体感する「オーダーメイドのこだわり／世界観」**

以下4事例では、実際の壁の一部を再現したダイナミックな壁面展示が登場。写真だけでは伝わらないやきものの質感や色の奥行き、スケール感を間近で体感いただけます。

- ・東京駅丸の内駅舎外壁（復原タイル） ・大阪伊奈製陶ビル外壁（「スリーディメンションタイル」）
- ・汐留タワー外壁（大形タイル） ・TODA BUILDINGの袖壁（「テラコッタ陶板」）

○課題に取り組む「現場の物語」を豊富な資料とともにひも解く

オーダーメイドのものづくりには事例ごとに異なる課題があります。依頼主の要望や思いに応えるため、試行錯誤した「現場の物語」を写真、実物資料とともにひも解きます。

○巨大な「プロジェクトブック」をめぐる展示空間

各プロジェクトの軌跡を「1冊の本」に見立てたL型の壁が点在し、それぞれのオーダーメイドのストーリーに出会える回遊型の空間デザインです。

■ やきものならではの難題と可能性に向き合った11の事例

※事例に付したキャッチフレーズはそれぞれの課題を表現したものです。

テーマ1「歴史のピースを復原する」**① 建築家が求めた「白」を追う**

横浜松坂屋本館（1937年増築、現存せず）のテラコッタ（2012年）

② 明治の気概を蘇らせる

東京駅丸の内駅舎（1914年）の化粧煉瓦（2011年）

③④ かつてのレンピをひもとく

東京都庭園美術館（旧朝香宮邸、1933年）／妃殿下居間バルコニーのタイル（2016年）と姫宮バルコニーのタイル（2017年）

⑤ デジタルだけでは復原できない

荻外荘（てきがいう、1927年）の龍文敷瓦（2024年）

テーマ2「クリエイターとのコラボレーション」

⑥ 陶芸は、建築になれるか

會田雄亮の大阪伊奈製陶ビル（1969年、現存せず）「スリーディメンションタイル」

⑦ 想像力に伴走する

大竹伸朗《直島銭湯「I♥湯」》（2009年）のタイル

⑧ 色を編み出す

岡崎乾二郎《ミルチス・マヂョル/Mirsys Majol/Planetary Commune》（2019年）のタイル

テーマ3「現代の建築をやきもので表現する」

⑨ 超高層ビルに自然のゆらぎを

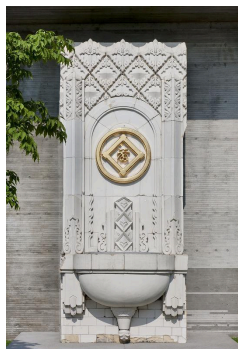
汐留タワー（東京、KAJIMA DESIGN、2003年）の大形タイル

⑩ 土地の記憶をやきものでつなぐ

TODA BUILDING（東京、戸田建設、2024年）の「テラコッタ陶板」

⑪ タイルはおもしろいの？

HORA BUILDING（東京、ツバメアーキテクツ、2022年）の「みたらしタイル」



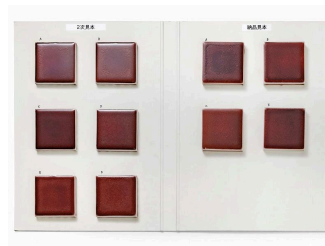
①



②



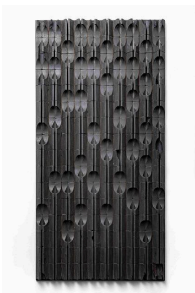
③



④



⑤



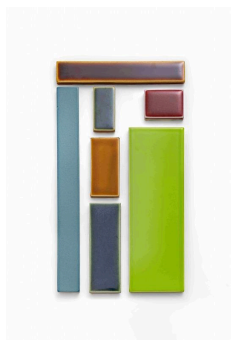
⑥



⑦ -1



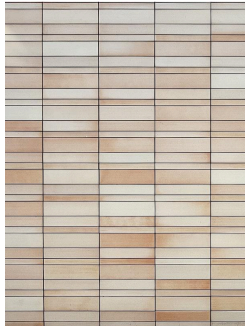
⑦ -2



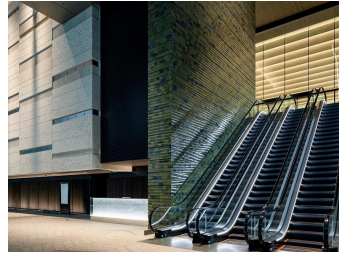
⑧ -1



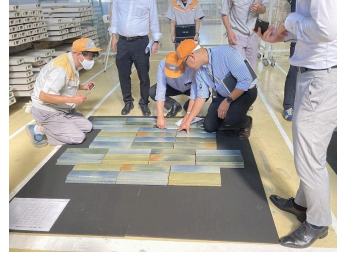
⑧ -2



⑨



⑩-1



⑩-2



⑪-1



⑪-2

画像キャプション・クレジット

- ① 横浜松坂屋本館の伊奈製陶製テラコッタ。解体時（2010年）に譲り受け、一部破損部分を復原して当館にて展示公開 撮影：梶原敏英
- ② 東京駅丸の内駅舎の化粧煉瓦（復原） 撮影：梶原敏英
- ③ 東京都庭園美術館（旧朝香宮邸）妃殿下居間バルコニーのタイル（復原） 撮影：梶原敏英
- ④ 同邸 姫宮バルコニーのタイル（復原）のテストピース。2次見本（台紙左）と納品見本（台紙右）が貼られている 撮影：梶原敏英
- ⑤ 荻外荘 応接室の龍文敷瓦（復原） 撮影：梶原敏英
- ⑥ 「スリーディメンションタイル」を纏う大阪伊奈製陶ビル外壁（部分）の1/10石膏模型 撮影：梶原敏英
- ⑦-1 画家・大竹伸朗《直島銭湯「I♥湯」》（2009年）のために制作されたタイル作品 作家蔵 撮影：梶原敏英
- ⑦-2 同作品のタイル壁画を確認する様子
- ⑧-1 造形作家・岡崎乾二郎《ミルチス・マヂョル/ Mirsys Majol / Planetary Commune》（2019年）のためにつくられたタイル 撮影：梶原敏英
- ⑧-2 同作品におけるタイルの配置を確認する様子。中央が岡崎氏
- ⑨ 汐留タワー（東京、KAJIMA DESIGN、2003年）低層部外壁の大形タイル
- ⑩-1 「テラコッタ陶板」で仕上げたエスカレーターの袖壁／TODA BUILDING（東京、戸田建設、2024年）エントランスロビー
- ⑩-2 「テラコッタ陶板」（TODA BUILDING）の完成見本を確認する様子
- ⑪-1 HORA BUILDING（東京、ツバメアーキテクツ、2022年）に使用された「みたらしタイル」の決定見本。2種類の加飾（流し掛け/ディップ）と透明釉コートの有無がある
- ⑪-2 「みたらしタイル」の加飾のひとつ「流し掛け」を施している様子 2点とも撮影：梶原敏英

■関連イベント

詳細含め、当館ウェブサイト等でご案内いたします。

<https://livingculture.lixil.com/ilm/>

■関連冊子『難題こそ、おもしろい。オーダーメイドの建築やきもの』

2026年10月31日発刊予定 定価770円（本体700円＋税10%） p 36 全カラー頁

企画展で取り上げる11事例を、「歴史のピースを復原する」「クリエイターとのコラボレーション」「現代の建築をやきもので表現する」の三つのテーマに分類して紹介。それぞれの課題に取り組んだものづくりのストーリーを、豊富な図版を加えて描きます。やきもの特有の難しさと向き合う建築やきもの世界観とその魅力に迫る一冊です。

*INAXライブミュージアム内ショップおよびLIXIL公式オンラインショップで購入可。

■INAXライブミュージアム概要

所在地：愛知県常滑市奥栄町1-130

TEL：0569-34-8282

開館時間：10:00～17:00（入館は16:30まで）休館日：水曜日（祝日は開館）、年末年始

共通入館料：一般：1000円、学生800円、中高生：500円、小学生：250円/税込

ホームページ：<https://livingculture.lixil.com/ilm/>

Facebook：<https://www.facebook.com/LIXIL.culture>

Instagram：https://www.instagram.com/lixil_inaxmuseums/

やきもの製品のテクノロジー拠点、愛知県常滑市にLIXILが開設する文化施設。

「窯のある広場・資料館」「世界のタイル博物館」「トイレの文化館」「建築陶器のはじまり館」「土・どろんこ館」「陶楽工房」「やきもの工房」の7館からなる“体験・体感型ミュージアム”。土からやきものまで、その歴史や文化、美しさや楽しさを伝えています。土と陶の魅力に触れる体験教室や企画展、ワークショップも開催。

**About LIXIL**

LIXILは、世界中の誰もが願う豊かで快適な住まいを実現するために、日々の暮らしの課題を解決する先進的なトイレ、お風呂、キッチンなどの水まわり製品と窓、ドア、インテリア、エクステリアなどの建材製品を開発、提供しています。ものづくりの伝統を礎に、INAX、GROHE、American Standard、TOSTEMをはじめとする数々の製品ブランドを通して、世界をリードする技術やイノベーションで、人びとのより良い暮らしに貢献しています。現在約53,000人の従業員を擁し、世界150カ国以上で事業を展開するLIXILは、生活者の視点に立った製品を提供することで、毎日世界で10億人以上の人びとの暮らしを支えています。

日本国内においては、「愛すべき日常を、つくろう。」をブランドスローガンとして掲げたLIXILをはじめとする、日本の住まいと暮らしに深く根差したブランドを幅広く展開しています。

株式会社LIXIL（証券コード: 5938）は、2026年3月期に1兆5,107億円の連結売上高を計上しています。

LIXILグローバルサイト：<https://www.lixil.com/jp/>

発行元

株式会社LIXIL（<http://www.lixil.com/jp>）

本社：東京都品川区西品川一丁目1番1号大崎ガーデンタワー24F

※このリリースは、LIXIL Newsroom（<https://newsroom.lixil.com/ja/>）でも発表しています。